

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・ 学年暦→2021年度版・2022年度版 p. 4～5
- ・ 通信教育部カレンダー
→ (3月) 2021年度版 p. 28～29 (4、5月) 2022年度版 p. 6～9
- ・ 演習・実習科目関連締切等
(社福) → 2021年度版 p. 41～44 2022年度版 p. 35～37
(精保) → 2021年度版 p. 45～47 2022年度版 p. 38～40

2022年4月以降の変更・留意点

- 『試験・スクーリング情報ブック2022』 p. 30～33に掲載しております。
必ずご確認ください。

【主な変更点】

- ・ 事務室の各種お問い合わせのメールアドレスが短縮されました。下記例のとおり、@より右側が短くなります。
例) 変更前: uc@tfu-mail.tfu.ac.jp → 変更後: uc@tfu.ac.jp
- ・ 科目修了試験の結果通知は、5月の科目修了試験より郵送は行わず、各自でWeb履修状況表をご確認いただくことといたします。

新型コロナウイルス感染防止に関するお知らせ

3 / 3 現在、4月以降の会場スクーリングの開講予定は4部をご参照ください。ただし、今後変更の可能性がございますので、最新情報をホームページ (<https://www.tfu.ac.jp/tushin/>) にてご確認ください。

◆対面での学習相談および自習室の使用について

現在、受付を中止しております。再開の際は下記にしたがってお申し込みください。

- 1) 平日のみ利用可能となっております。日付は第2希望までご記入ください。
- 2) 「利用申込書」を提出し、予約が必要です。
- 3) 本学通信教育部HPからダウンロードした「利用申込書」を利用希望日の1週間前までにメール添付で提出してください（提出先uc@tfu.ac.jp）。
- 4) 郵送で提出する場合は、巻末様式を使用し、利用希望日の1週間前までにお申し込みください（返送先住所を明記し定形封筒に84円切手を貼付した返信用封筒を同封）。
- 5) 当日は学生証の提示が必須となります。
- 6) 学習相談は平日の下記①～⑤となり1日一人1回の利用となります。
午前（①10：00～10：30、②11：00～11：30）
午後（③14：00～14：30、④15：00～15：30、⑤16：00～16：30）
- 7) 学習相談は講義に準ずるため、録音・録画はご遠慮ください。
- 8) 自習室の利用可能時間は、平日の下記①②となり1日一人1回の利用となります（入室制限：1回4名）。なお、スクーリング開講日につきましては感染防止の観点から閉鎖させていただき、使用できませんのでご注意ください。
①10：00～12：00（120分） ②14：00～16：00（120分）

【注意事項】

- 1) 学習相談または自習室の使用を目的とした入構に限ります。
- 2) 1回の学習相談は最長30分以内、1回の自習室使用は最長120分以内となります。

- 3) 入館は開始時間5分前からになります。開始時間に遅れないようにお出でください。
- 4) 各終了時には退室していただきます。
- 5) 入退館時は通信教育部職員が受付し、誘導いたします。
- 6) 入構時には、ご持参のマスク（不織布）着用および出入口での検温と手指消毒、チェックリストの記入が必要です。
- 7) 発熱のある方（体温37.5度以上）、体調不良の方は、入構することができません。
- 8) 疾患をお持ちの方やご高齢の方など感染により重症化しやすい方は、メールや電話などでご相談いただき、自習室のご使用は自粛をお願いいたします。

◆事務室各対応時間

〈電話〉 9：00～17：00(水曜日を除く)

〈メール〉 9：00～17：00

◆ご協力をお願い

- ・レポート、各種証明書の申込等は、郵送での提出にご協力ください。
- ・制限下での入構が可能となりましたが、引き続き、電話・メール・郵送での質問・ご相談にご協力ください。

注) 図書館（国見キャンパス）等については、本学図書館ホームページ (<https://www.tfu.ac.jp/libr/>) でご確認ください。

卒業される
皆さまへ

教員 MESSAGE

ご卒業おめでとうございます

通信教育部長・教授 三浦 剛

ご卒業おめでとうございます。

このコロナ禍、強い意志と多くの努力をもって学び続け、ご卒業なさる皆様に敬意を表します。くわえて、これまで皆さんを支えてこられた、ご家族やご友人、職場の方々にも心よりお礼申し上げます。

私は学生時代に、教育者、教育哲学者林竹二の「学ぶとは、いつでも何かが始まることで、終わることのない過程に一步踏み込むことである。」(林竹二『学ぶということ』国土社)ということばにふれました。今、私が通信教育に携わり、社会人の方々の学びなおしへの意志や、専門職の皆さんの専門性への誠実さに感銘を受けながら思うのは、この学び続ける、考えることをやめないことの大切さです。

先の震災、そしてこの疫病の流行、そしてついには戦争と、これまで実感できなかったことが、現実起きています。私たちは激しく変化する環境の中で、日々生じる問題に対処し、生活しなくてはなりません。まさに「状況の中の人」であることに気づかされます。このような状況を乗り越えるには、学び続け、考え続けることを止めないことしかなく、それを止めたとき、止めさせられたとき、私たちの失うものの大きさは、計り知れないでしょう。

大学を卒業し、新たなステップに向かわれる皆さんは、今日からまた終わることのない、学びの過程に進んでいていただきたいと思います。

また、いかに世の中の状況が変わっても、変わらないことの学びもあります。その一つを本学の建学の精神「行学一如」が表しています。実践と

研究は一体であるという意味ととらえています。一体であるということは、学んだ知識や理論は、現実の実践や経験において常に検証され、修正され、より確かなものになっていくということです。これを「実学研究」といいます。数年前のブラックホールの存在を証明した研究には、「真理」に触れた思いがして感動しました。一方でそのすばらしい研究結果は、今後数十年にわたる私たちの生活に何ら影響を及ぼすものではないことも事実です。本学では実学研究を重視しています。日々刻々と変化する状況の中で、生き続け、成長し続けるためには、実践理論は常に検証され、修正される必要があります。

また、本学の教育の理念「自利利他円満」についても考えてみたいと思います。これは自己の利益と他者の利益が一致して、世の中が円満になるという意味ととらえてよいでしょう。価値観や個人の多様性が広がる今日、ここでも私たちは、新しい考え方、新しい行動の仕方を探し出さなければならないでしょう。個々人がそれぞれを尊重し、その存在を認め合い、持てる力を出し合って支えあう社会、いわゆる包摂社会の実現が、現代を生きるすべての人の課題であることは間違いありません。これらの課題に対し、ここでも学び続けることが求められるのではないのでしょうか。

私は、大学での学びは、学び続けることを学ぶことだったのではないかと考えています。本学での学びの核となる哲学「行学一如」と「自利利他円満」を胸に、変化し続ける世の中に漕ぎ出し、学びを、考えることを止めることなく、すべての人が尊重され、ひとり一人を認め合う新たな社会作りに取り組んでください。